



Sustainable Community Center Japan

NPO

New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2021 年度 活動報告書

2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日

2022 年 2 月 18 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに 「2021年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」
 - 1-1. どこカル. ネットの活動概要
 - 1-2. どこカル. ネットのサービス概要
 - 1-3. どこカル. ネットの各種活動実績
 - 1-4. どこカル. ネット運営体制

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業
 - 2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要
 - 2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績
 - 2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」
 - 3-1. アグリライフの活動概要
 - 3-2. アグリライフの各種活動実績
 - 2-3. アグリライフの運営体制

4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 4-1. 京都研究会

5. 広報・マーケティング
 - 5-1. 各種メールリングリスト運営
 - 5-2. Web サイト運営

6. 会員について

II センター運営に関する活動

1. 総会開催
2. 2021年度 SCCJ 理事会開催日
3. 事務局体制
4. 理事、監事、顧問

はじめに 「2021 年度の報告と今後の抱負」

2021 年度の特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センターは、多くの皆様方のご協力を頂きながら、その活動を無事に進めることができました。ご尽力をいただきました内外の皆様へ深く御礼を申し上げます。

2021 年度も、2020 年度に引き続いて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の第 3 波、第 4 波、第 5 波と続き、生命や健康の危機はもとより、医療関係者のみなさま、保健衛生関係機関のみなさま、また何よりも社会経済活動の規制や自粛により大きな影響を受けることになった多くの方々にとって、大変厳しい一年となりました。

このような大変な事情はありましたが、私たちは、当初から ICT 技術によって持続可能な社会を拓いていくことができるとの理念を掲げて、その実践を進めてまいりました。そのことが、コロナ禍においても証明され、私たちの活動は、組織的にも事業的にも、大きな障害もなく進めて行くことができました。これも、今日まで多くの方々のご助力があったからこそとあらためて感謝の念を強くしています。

2021 年度は、例年のとおり 1 月 14 日（金）「with コロナ時代の持続可能な地域づくり」をテーマに第 23 回京都研究会 2021-2022 を開催することができました。ZOOM によりますオンライン開催でしたが、多くの方々にご参加いただき、大変充実した発表と討論の時間を持つことができました。講演としては、「SDGs とソーシャル・イノベーション」、「with コロナ時代における市民活動」、「with コロナ時代を支える IT 業務支援システムの状況」、「with COVID-19 時代の健康情報管理」の 4 つがあり、活発な討論が繰り広げられました。

2021 年度の 1 年間を通じて着実に課題を処理してきました。SCGJ の初期の主要次号で、ICT による地域づくりを目指した「みあこネット方式普及支援事業」については、その先導的な役割を終えたことから事業を終了としましたが、事業終了後の措置として、記録を整理してホームページに掲載いたしました。

「どこカル ネット」につきましては、これまで同様に着実に進めています。「ポケットカルテ開発状況」も順調です。また、総務省の地域 ICT 利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」についても、毎月の研究会開催を始めとして充実した成果を残してきました。例年の作文コンクールについても、実施することができました。

2022 年度につきましても、これまでと同様に ICT による持続可能な地域づくりを目指して、積極的に事業展開をしてまいりたいと思います。今年度も前年度同様に、「どこカル ネット」事業や研究会事業を継続し、さらに充実させていきたいと思っております。新型コロナウイルス感染症の流行とその終息は予断を許しません。みなさま方からのご支援ご協力を頂きながら、感染対策をしっかりとって歩みを重ねたいと考えております。

2022 年 2 月吉日

特定非営利活動法人
日本サステナブル・コミュニティ・センター
代表理事 新川達郎

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

1-1. どこカル. ネットの活動概要

どこカル. ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心・安全で質の高い医療を受けることが出来るような（すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような）地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして、2004年5月に開始。

「どこカル. ネット」プロジェクト開始以前に、北岡顧問が支援してきた3つの二次医療圏を経て、50の二次医療圏の地域中核病院に対して標準化型電子カルテの導入支援や情報化支援を行ってきた。

また、2008年10月より、個人の健康履歴（検診データ管理、紹介状管理、入退院サマリー）を、インターネットを介して携帯端末やPCを用い、個人主体で管理可能なサービス「ポケットカルテ」の本サービスを開始している。

1-2. どこカル. ネットのサービス概要

- 特徴：いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り
- [1] いつでも：ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医（診療所）」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有（一地域一患者一電子カルテ）を行う。（注：ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。）
 - [2] どこでも＝ユビキタス：「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者＝住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
 - [3] だれでも：ITコンソーシアム京都（京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成）医療情報化部会との協業で進められている「共通診察券（無償）」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
 - [4] 安心安全：「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセスルータ（無線基地局）を利用。また、医療従事者や患者＝住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証（生体認証のひとつ）」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
 - [5] 質の高い健康・医療・福祉：共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテラーメイドで提供。

1-3. どこカル. ネットの各種活動実績

2021年度は以下の活動を実施した。

■「どこカル. ネット」事業会議

週1回、北岡顧問、スタッフ一同で定例会議を実施。2021年度においては計42回の会議を開催した。

■ 医療機関・学術団体向けの医療情報システム・医療関連システム導入・構築・更新に対するコンサルテーション

医療機関側に不足しがちな IT スキルを補い、助言をし、医療機関と同じ立場で導入ベンダと交渉等を行う。また、医療情報を適切に扱う体制作りや、問題解決に対する助言、支援を実施。2016 年度終了迄に定期的な支援を行った医療機関は 50 病院。2017 年度以降は休止している。

■ 「ポケットカルテ®」～個人向け健康情報管理サービス～

1995 年 1 月 17 日、我々は阪神・淡路大震災を経験した。その復興の中で、医療機関の壊滅や火災による紙カルテの消失や焼失を経験し、「自らのデータは自ら守る」ことの重要性和、大規模災害時などにそれを支えるためのセーフティネットの必要性を痛感した。この経験から、「患者中心の医療」を実現すべく構築したものが個人向け健康・医療・福祉・介護情報履歴管理サービス「ポケットカルテ®」(※)である。

個々の住民が自らに最適化された医療を享受するためには、当該個人の詳細な病歴や成長発達記録などが必要となるが、個々の住民がその情報を保持していることは極めて稀で、医療機関の診療記録のみが頼りとなっている。この医療機関ごとに管理されている住民の医療履歴を自ら時系列に集約管理できる仕組みづくりとして、演者が考案・開発し、特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター（京都府京都市、以下、NPO 法人 SCCJ）が運営主体となって、「ポケットカルテ®」を広く日本全国に無償でサービス提供している。

「ポケットカルテ®」はクラウド型 PHR(Personal Health Records)あるいは PLR(Personal Life-log Records)サービス、すなわち、利用者自身の生涯にわたる健康・医療・福祉・介護履歴情報を預けることのできる「情報銀行」であり、携帯電話やスマートフォンあるいはインターネットに接続可能な PC があれば全国何処でも無料で利用可能である。

2018 年 6 月の閣議決定にて「経済財政運営と改革の基本方針（いわゆる骨太の方針 2018）」を閣議決定した。この中で、「Society 5.0」の実現に向けて今後取り組む重点分野と変革の牽引力となる「フラッグシップ・プロジェクト」として、「次世代ヘルスケア・システムの構築プロジェクト」が盛り込まれ、

「PHR について、2020 年度より、マイナポータル（個人向け行政ポータルサイト）を通じて本人等へのデータの本格的な提供を目指す。」と明記された。

また、「経済財政と運営の基本方針 2019～「令和」新時代：「Society 5.0」への挑戦～」（2019 年 6 月 21 日閣議決定）においては、「生まれてから学校、職場など生涯にわたる健診・検診情報の予防等への分析・活用を進めるため、マイナポータルを活用する PHR との関係も含めて対応を整理し、健診・検診情報を 2022 年度を目途に標準化された形でデジタル化し蓄積する方策をも含め、2020 年夏までに工程化する」こととされており、今後は他の健康・医療等情報等も含めた PHR の活用も期待されている。これを受けて、我が国の PHR についての目的や方向性を明確にした上で、自身の健康に関する情報について電子データ等の形での円滑な提供や適切な管理、効果的な利活用が可能となる環境を整備していくため、関係省庁や省内関係部局との連携の下、2019 年 9 月 11 日から「国民の健康づくりに向けた PHR の推進に関する検討会」が始まり、その実作業班として 2020 年 1 月 15 日から「民間事業者による PHR の適正かつ効果的な利活用に関する作業班」が活動を開始し、当法人顧問である独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長北岡有喜博士も有識者として参加。また、2020 年 10 月より総務省主管の「5G 時代における遠隔医療等の在り方に関する調査研究」検討会と WG が接地され、検討会委員および WG 座長として北岡有喜博士が参加している。

(※)「ポケットカルテ®」 当法人顧問である独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長北岡有喜博士が企画・考案し、当法人がサービスを提供している個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス (PHR : Personal Health Record) で、利用者は、専用のサイト「ポケットカルテ®」に会員登録し、携帯電話・PHS、スマートフォン、パソコンなどの情報端末から自身の健康・医療・福祉の情報を管理することができる。

2008 年秋からサービスの提供を開始し、様々なメディアで紹介され、正式サービス開始から 4 ヶ月間（2009 年 1 月時点）で、10,000 ユーザーを突破した。サービス開始当初に対応していた携帯電話・PHS に加え、普及が目覚ましいスマートフォンやタブレット端末にも対応し、より多くのユーザーが快適に利用できるようになり、現在（2021 年 12 月末時点）64,087 人のユーザーが実利用している。

■ 令和 3 年度「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」ならびに「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会の実施

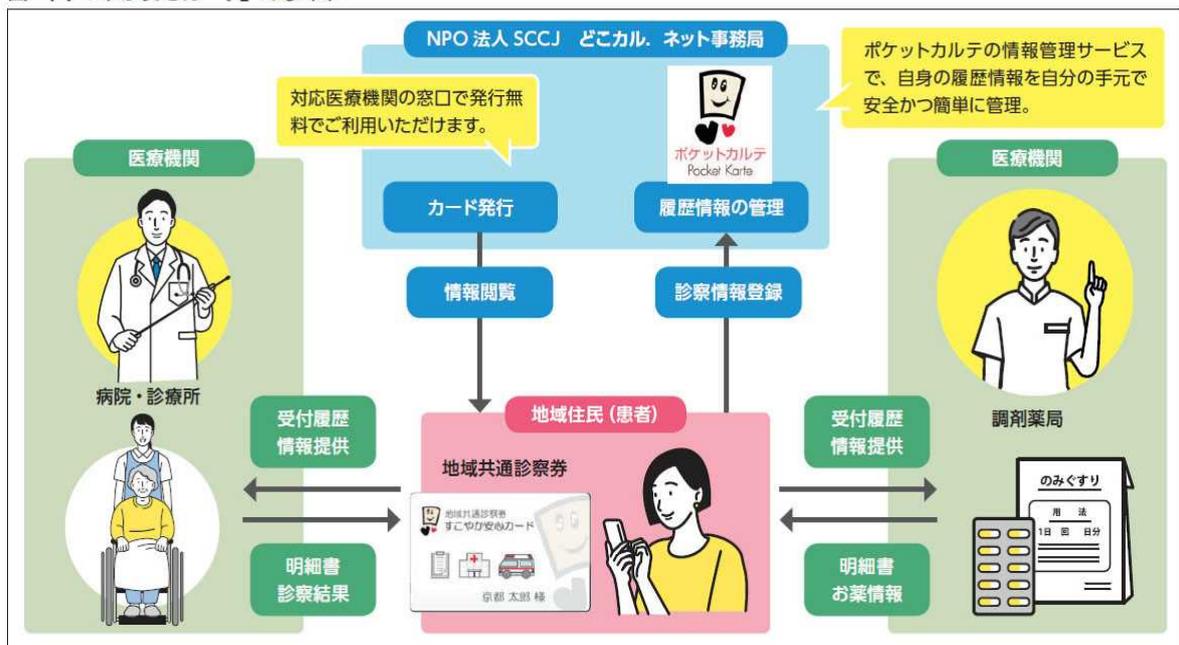
地域共通診察券事業の進捗状況の共有と、今後の事業展開等についてのディスカッションを行うため、毎月第 3 木曜に運営協議会を実施した。また、同日同会場にて、地域共通診察券事業に関連するテーマにおける「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会を実施した。

＜地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会 開催日＞

令和3年2月18日	第108回「地域共通診察券運営協議会」 第99回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会
令和3年4月15日	第109回「地域共通診察券運営協議会」 第100回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会
令和3年6月17日	第110回「地域共通診察券運営協議会」 第101回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会
令和3年8月19日	第111回「地域共通診察券運営協議会」 第102回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会
令和3年10月21日	第112回「地域共通診察券運営協議会」 第103回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会
令和3年12月10日	第113回「地域共通診察券運営協議会」 第104回「ポケットカルテ®」「地域共通診察券」合同勉強会

今後も、「ポケットカルテ®」「地域共通診察券（すこやか安心カード）」を通して、医療の情報化、地域住民の健康増進への貢献、電子行政サービスの普及を推進し、さらに利用者の統計データの活用により新しいサービスを創造することを目指していく。

図 「すこやか安心カード」のしくみ



▲地域共通診察券「すこやか安心カード」を活用することで、お薬手帳や医療費明細書、様々な検査結果など、対応医療機関から提供される医療情報を自分自身で簡単かつ安全に管理することができます。また、これら情報を必要に応じて医師等に提供することで、データを根拠とした質の高い医療サービスを受けることができます。

【月刊 J-LIS】3月号より引用

■ 「どころカル. ネット」会員研修会

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として2ヶ月に一度開催。2021年度においては6回の研修会を開催し、7月に100回目を迎えた。

＜研修会開催日＞

- ・ 2021年1月22日（金） 第97回どころカル. ネット会員研修会
- ・ 2021年3月12日（金） 第98回どころカル. ネット会員研修会
- ・ 2021年5月14日（金） 第99回どころカル. ネット会員研修会
- ・ 2021年7月09日（金） 第100回どころカル. ネット会員研修会
- ・ 2021年9月10日（金） 第101回どころカル. ネット会員研修会

- ・ 2021年11月12日（金） 第102回どこカル、ネット会員研修会

■ 「第17回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の実施

将来の医療従事者の育成・発掘、また創造的な医療分野の開拓を目的とし、2021年度も小学生を対象とした作文コンクールを実施した。

■ 2021年の主なイベント一覧

- ・ 01月05日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 01月12日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 01月15日：【日本看護協会】第2回労働と看護の質データベース事業の推進に関する検討委員会（オンライン）
 - ・ 01月19日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 01月20日：【J-LIS】第28回経営審議委員会事前説明（オンライン）
 - ・ 01月22日：第22回京都研究会開催（オンライン）
 - ・ 01月25日：【J-LIS】第28回経営審議委員会開催（オンライン）
 - ・ 01月26日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 01月27日：【総務省】今後の通信や映像技術を活用した、院外・院内 ICT 化という側面での研究開発についてのヒアリング（オンライン）
 - ・ 01月29日：【総務省 L5G】SCGJとの意見交換会（オンライン）
 - ・ 02月02日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 02月03日：Microsoft Teams【近畿総合通信局】地域情報化アドバイザー会議（オンライン）
 - ・ 02月03日：【健診等情報利活用ワーキンググループ 民間利活用作業班】第6回作業班（オンライン）
 - ・ 02月09日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 02月16日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 02月18日：第108回（2020年度第5回）総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会（オンライン）
 - ・ 02月22日：【日本看護協会】第3回労働と看護の質データベース事業の推進に関する検討委員会開催（オンライン）
 - ・ 03月02日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 03月04日：春の地域情報化アドバイザー全体会議（オンライン）
 - ・ 03月08日：総務省【5G時代における遠隔医療等の在り方に関する調査研究】第3回WG（オンライン）
 - ・ 03月09日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 03月12日：【どこカル、ネット】第98回企業会員研修会予定（オンライン）
 - ・ 03月16日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 03月17日：【北野病院】第99回研究所セミナー開催予定（北野病院）
 - ・ 03月18日：総務省【5G時代における遠隔医療等の在り方に関する調査研究】第3回検討会（オンライン）
 - ・ 03月23日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 03月25日：【健診等情報利活用ワーキンググループ 民間利活用作業班】第7回作業班開催（オンライン）
 - ・ 03月30日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 04月06日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 04月13日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 04月15日：第109回（2020年度第1回）総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会開催（オンライン）
 - ・ 04月21日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 04月21日：【安芸太田病院】WEB会議
 - ・ 04月28日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 05月12日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 05月14日：どこカル、ネット第99回企業会員研修会予定（オンライン）
 - ・ 05月19日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 05月26日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
 - ・ 06月01日：【総務省中国総合通信局】電波の日・情報通信月間 記念講演会（オンライン）
- 総務省中国総合通信局主催「電波の日・情報通信月間記念講演会」が開催され、「With COVID-19 時代

の情報管理」と題し、講演を行った。

- 06月02日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 06月09日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 06月11日：【J-LIS】第30回経営審議委員会事前説明会開催(オンライン)
- 06月16日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 06月17日：第110回(2021年度第2回)総務省「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会開催(オンライン)
- 06月23日：【J-LIS】第30回経営審議委員会開催(オンライン)
- 06月23日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 06月30日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 07月07日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 07月09日：どこカル. ネット第100回研修会(オンライン)
- 07月10日：【地方公共団体情報システム機構(J-LIS)】月刊J-LIS3月号に巻頭インタビュー「電子カルテの第一人者が語る！マイナンバーカードと健康保険証の連携への期待」-医療現場からみたオンライン資格確認とリモート診療の今後-インタビュー記事が掲載
- 07月13日：【ITコンソーシアム京都】令和3年度委員会・総会(オンライン)
- 07月14日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 07月21日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 07月26日：【厚生労働科学研究】田口班WEB会議開催予定
- 07月28日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 08月11日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 08月18日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 08月19日：第111回(2021年度第3回)総務省「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会開催(オンライン)
- 08月23日：【J-LIS】9/1経営審議委員会議事の事前説明(オンライン)
- 08月25日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月01日：WebEX【J-LIS】【第32回経営審議委員会】(オンライン)
- 09月01日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月08日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月10日：どこカル. ネット第101回研修会(オンライン)
- 09月15日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月22日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月29日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 09月30日：【安芸太田病院】5G+PHR Project 会議(オンライン)
- 10月06日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 10月13日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 10月20日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 10月21日：第112回(2021年度第4回)総務省「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会開催(オンライン)
- 10月27日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 11月10日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 11月12日：どこカル. ネット第102回研修会(オンライン)
- 11月17日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 11月19日：第52回(2021年度)日本看護学会学術集会(朱鷺メッセ(新潟県))
- 11月24日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 10月21日：第112回(2021年度第4回)総務省「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会開催(オンライン)
- 12月01日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 12月06日：【経済産業省】地域医療NW成功事例ヒアリング(オンライン)
- 12月06日：【総務省】香川大学病院支援Web会議(オンライン)
- 12月08日：定例会「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- 12月08日：【全国スマートシティ協議会】講演会
- 12月09日：総務省【医師対医師(D to D)の遠隔医療の取組状況等にかかる調査研究】第1回検討委員会開催(オンライン)
- 12月10日：第113回(2021年度第5回)総務省「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営

協議会開催（オンライン）

- ・ 12月15日：定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 12月22日：定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会

1-4. どこカル ネット運営体制

■ 運営体制 <http://www.dokokaru.net/modules/tinyd0/index.php?id=7>

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	北岡 有喜	社会医療法人 岡本病院（財団）理事／京都岡本記念病院 副院長
事業運営責任者	事業統括責任者兼務	
総括技術責任者	事業統括責任者兼務	
技術運用責任者 （情報通信技術担当）	小森 由宗	NPO 法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター
財務責任者	事業統括責任者兼務	

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	社会医療法人 岡本病院（財団）理事／京都岡本記念病院 副院長
國領 二郎	慶應義塾大学総合政策学部教授、慶應義塾常任理事

【企業/企業会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	アイテック阪急阪神株式会社	株式会社アドバンスト・メディア
	株式会社医用工学研究所	株式会社インスパイア
	エニシア株式会社	株式会社帯広シティーケーブル
	京都電測株式会社	株式会社KCN京都
	KDDI株式会社	サトーヘルスケア株式会社
	株式会社スカイコム	スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社
	一般財団法人聖マリアンナ会	泉工医科工業株式会社
	株式会社T-ICU	ティック株式会社
	となみ衛星通信テレビ株式会社	株式会社ナイス
	日本デジタル配信株式会社	株式会社ハートネットワーク
	富士通株式会社	三井住友信託銀行株式会社
	株式会社ミライテクノ	メディカル・データ・ビジョン株式会社
	リコージャパン株式会社	

他1社、計26社（50音順、2021年12月末現在）

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業

<http://www.miako.net/>

2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要

みあこネットとは、市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクトで、当法人の呼びかけにより2002年5月から広がり、市民有志の負担でアクセスポイントを設置・運用する活動である。企業内、家庭内におけるネットワークへ、安心・安全に基地局を運営し、また利用者にとっても簡単に公衆でインターネット接続を利用できる方法として、VPNを利用した「みあこネット方式」を提唱し、同方式の普及支援活動を実施してきた。

プロジェクト開始から2005年3月末までの3年間は、SCCJを運営母体とする実証実験を実施。2005年4

月～2008年3月末は、京都の地域プロバイダ「京都アイネット」での商用運用の採用があり、地域内情報バリアフリーの一役を担った。同社は2008年3月をもって、「みあこネット方式」を用いた商用運用を終了している。

2008年4月からは、「みあこネット方式」に準拠したサーバをパッケージ化し、京都大学や京都医療センター臨床研究センター独自の運用を継続して多くの学生、教職員や従事者に対し運用された。その後、同方式の無線LANサービスは2016年2月末をもって終了した。

プロジェクト開始から1年を経た当時、アクセスポイントは京都を中心に全国230か所、利用ユーザ数は4,600人に達した。まだ公衆無線インターネットやスマートフォンの登場がまだなかった環境（iphone3Gは2008年発売）で、インターネット通信業界に提示したこの「市民の力」の影響力は大きく、日本における公衆無線インターネットインフラ構築の先駆けであり、インターネット通信のセキュリティの重要性が広く認知されたことが、当プロジェクトの果たした役割であると考えられる。

「みあこネット」の実証実験で最初に用いられていた無線プロトコルである MISP (MIS Protocol) は、モバイルブロードバンド協会での標準化（2004年）を経て、真野浩氏（現・コーデンテクノインフォ(株)）らにより IEEE に標準化提案され、“Fast Initial Link Setup” という名称で議論されていたが、2016年12月に、IEEE802.11ai 規格として正式に承認された。

2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績

本年度の活動実績なし

2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

■ 運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	北岡 有喜	社会医療法人 岡本病院（財団）理事／京都岡本記念病院 副院長

3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」

<http://www.agri-life.net/>

3-1. アグリライフの活動概要

ICT を活かした安心・安全な食と農のある暮らしの根ざす地域社会作り、都市と農村の持続可能な交流と産業モデル作りを行う。なお、アグリライフは2005年より実施している「こちネット」の掲げる理念「障害の有無や、性別、年齢にかかわらず自律性、自発性、創造力を発揮できる安心・安全な社会モデル作り」はそのまま踏襲し、2009年6月1日付けで発展的改称した事業である。アグリライフの事業は、上記理念を掲げる事業を行う主催事業と、他団体・企業に対する企画立案、各種支援事業に分けられる。アグリライフは、2011年1月末をもってすべての事業を終了し、現在は新たなプロジェクトを休止している。

3-2. アグリライフの各種活動実績

本年度の活動実績なし。

3-3. アグリライフ運営体制

■ 運営体制

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	隅岡 敦史	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター理事

【担当顧問】

氏名	所属

4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）

4-1. 京都研究会

毎年恒例となっている研究会事業の京都研究会について、2021-2022 年度は 2022 年 1 月 14 日（金）に zoom 開催を予定している。内容は以下の通り。

■ 第 23 回京都研究会 2021-2022

<http://www.sccj.com/kk/2021-2022/>

「with コロナ時代を支えるデジタルトランスフォーメーション」

【内容】

- 13:00～ 受付開始
- 13:00～13:05 開会の挨拶：新川 達郎（同志社大学名誉教授/
NPO法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター代表理事）
- 13:05～13:50 「教育におけるデジタルトランスフォーメーション」
講演：新川 達郎（同志社大学名誉教授/
NPO法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター代表理事））、
「コロナ禍におけるリモート教育～大学におけるDX」
講演：中嶋 学 先生（同志社大学政策学部嘱託講師）
- 13:50～14:20 「withコロナ時代 子育て世代における学びと暮らしの変化」
講演：隅岡 敦史（NPO法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター理事）
- 14:20～15:10 「新しい生活様式を便利にし、日本の生産性を高めるDXとは」
講演：竹原 司（インフォグリーン株式会社 代表取締役社長/NPO法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター副代表理事）
- 15:10～15:25 休憩
- 15:25～16:15 「「医療機関のDX」による「医師の働き方改革」推進について」
講演：北岡 有喜（社会医療法人 岡本病院（財団）理事／京都岡本記念病院 副院長/
NPO 法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター顧問
- 16:15～16:50 【総合討論会】『with コロナ時代を支えるデジタルトランスフォーメーション』
コーディネータ：新川 達郎（同志社大学名誉教授/NPO 法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター代表理事）
- 16:50～17:00 閉会の挨拶：竹原 司（インフォグリーン株式会社 代表取締役社長/NPO 法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター副代表理事）

【参加費】：無料

【運営体制】

主催：特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター

後援：京都市、IT コンソーシアム京都、京都新聞

【定員】30名

5. 広報・マーケティング

Web サイト、プレスリリース、各種メールマガジンでの広報・マーケティングを行った。

5-1. 各種メールマガジン運営

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールマガジンリストが 10 数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールマガジンリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメールマガジンリストで、設立当初の 1999 年の 190 名から、2021 年 12 月末に登録者は 527 名である。

5-2. Web サイト運営

2021 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・ SCCJ <http://www.sccj.com/>
- ・「みあこネット」方式普及支援事業 <http://www.miako.net/>
- ・どこカル ネット <http://www.dokokaru.net>
- ・ポケットカルテ <http://pocketkarte.net/>

6. 会員について (2021年12月末現在)

＜SCGJ 正会員＞

会員種別	継続	新規	計
一般	22	1	23
学生	0	0	0
合計	22	1	23

＜どこカル. ネット企業・団体会員＞30社
 詳細は「どこカル. ネット」項目を参照のこと。

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター 総会

日時： 2021年2月19日（金） 13:00-13:30

会場： ZOOM 開催

2020年度活動報告、収支報告、2021年度事業について了承された。

2. 2021年度 SCGJ 理事会開催日

下記の日程に於いて、理事、事務局スタッフによる定期理事会を開催した。

- ・ 2021年1月22日
- ・ 2021年2月19日
- ・ 2021年3月26日
- ・ 2021年4月16日
- ・ 2021年5月21日
- ・ 2021年6月18日
- ・ 2021年7月16日
- ・ 2021年8月13日
- ・ 2021年9月17日
- ・ 2021年10月15日
- ・ 2021年11月26日
- ・ 2021年12月18日

3. 事務局体制 (2021年12月末現在)

(1) 職員

常勤：1名

どこカル. ネット事業運営責任者：事業統括責任者兼務

プロジェクト・コーディネータ：小川

どこカル. ネットボランティア：5名

4. 理事、監事、顧問 (2021年12月末現在)

(50音順)

代表理事	新川 達郎	同志社大学名誉教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	インフォグリーン株式会社 代表取締役社長
	隅岡 敦史	静原ミレットファーム
監事	土井 充	公認会計士 土井充事務所

顧問	跡田 直澄	京都先端科学大学 経済経営学部 特任教授
	北岡 有喜	社会医療法人 岡本病院（財団）理事／ 京都岡本記念病院 副院長
	國領 二郎	慶應義塾大学総合政策学部教授、慶應義塾常任理事
	辻 正次	学校法人八代学院神戸国際大学学長
	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター理事

以上